

# 赤潮情報（3）

令和6年7月9日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター  
豊前海研究所長

7月9日に全域調査を行った結果、有害プランクトンのカレニア ミキモトイが広範囲で確認されています。特に漁港域で増殖傾向となっており、注意が必要です。

またシャットネラ属は、前回調査よりも減少しましたが、今後も注意してください。

魚介類によってはへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパーを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

## <有害プランクトンの状況>

○カレニア ミキモトイの1mlあたりの最大密度は3,935細胞でした。

- ・ 曾根～苅田地先でカレニア ミキモトイの赤潮による着色が認められました。
- ・ 本種は、海水1mlあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- ・ また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。

○シャットネラ属の1ml当たりの最大密度は35細胞でした。

- ・ 本種は、100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあります。
- ・ また、本種は海水1mlあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視できますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。
- ・ なお、表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。

## <今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、増田)までご連絡下さい。

# 漁場調査結果

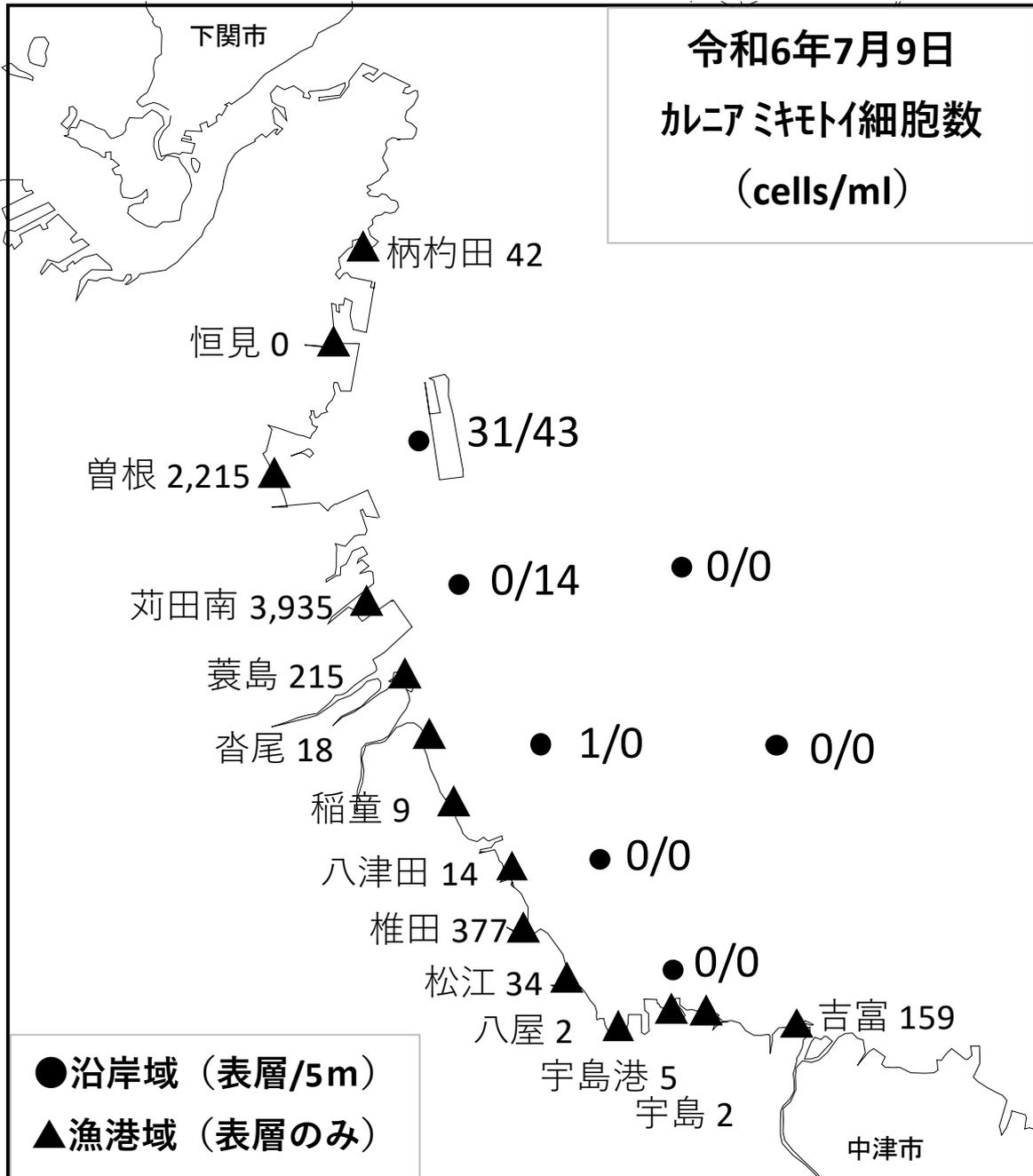


図1 カレニア ミキモトイの漁港域および沿岸域の細胞数

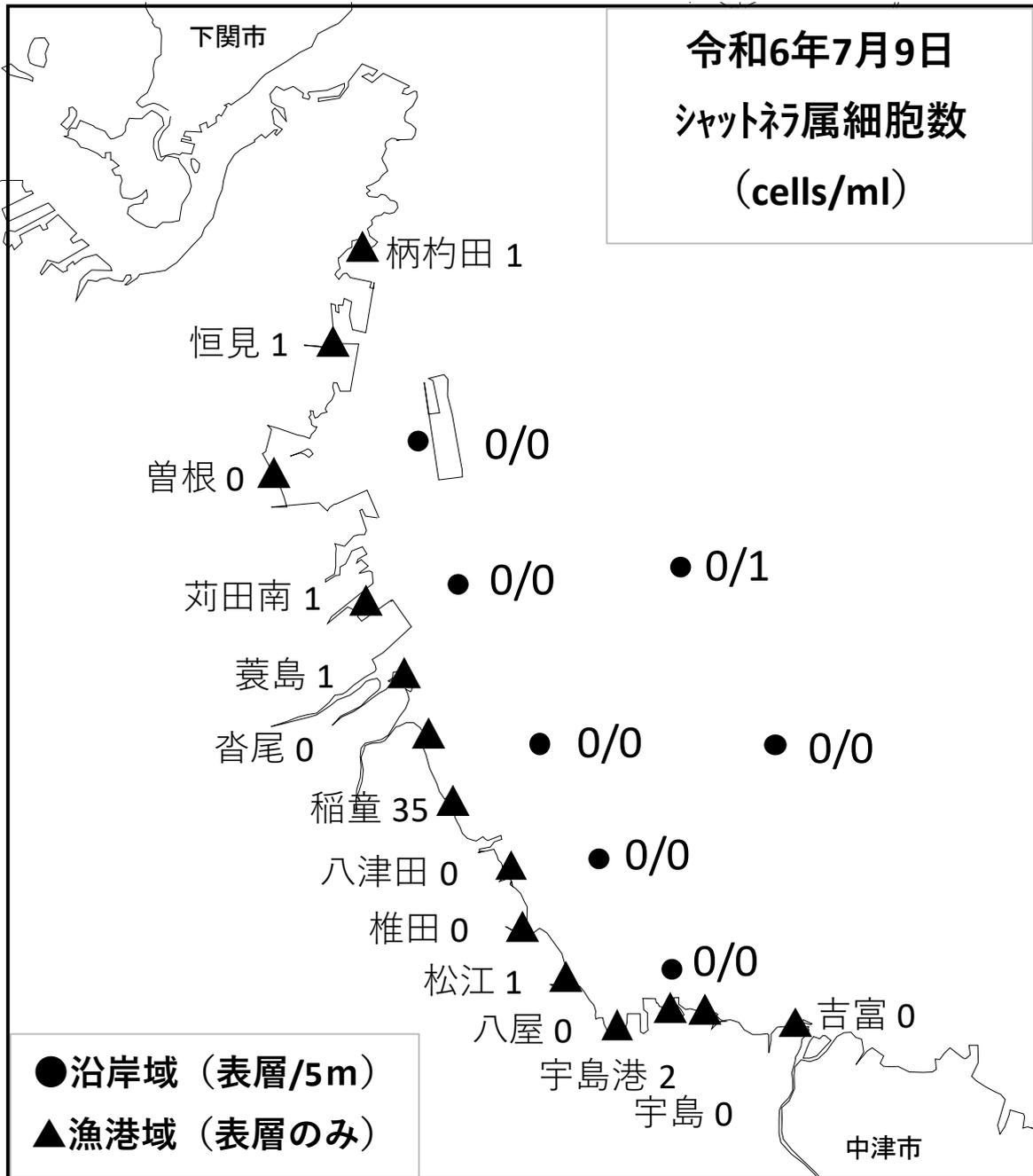


図2 シャットネラ属の漁港域および沿岸域の細胞数